

研修だより

矢島小学校

5

04.6.2

小学校で確かな学力と豊かな心を育てる評価 その1

5月24日の矢島町教師教育研究会で発表した内容です。

はじめに、評価は、誰が何のために行うのか、参加者全員に書いてもらいました。みなさんも書いてみてください。私の回答は6号の文末に載せます。

1. 何のために「評価」を行うのか

2. 評価と評定の違い

- ・評価は特別な行為ではない。誰もが日常授業で当たり前に行っている行為である。
- ・評価とは、「善悪、美醜などの価値を判じ定めること」(広辞苑)
- ・ABC等の判定をすることが評定。フィードバック機能をもつものが評価。
(評価は終着点ではなく、出発点。)

3. 矢島小学校で行っていること(「研究の重点と施策」より)

(3) 指導と評価の一体化

- 各教科等の評価規準に沿った指導と評価
- 子供の自己評価、相互評価を生かした指導
- 二学期制の趣旨を生かした評価・指導計画の実践(長期休業の有効活用)

留意している点

- ・評価規準から作成した評価基準(目標)表をもとに、評価する。
- ・習熟度別編成であっても評価基準は同じ。
(発展的な学習に取り組まなければ高い評定をつけないということではない。)
- ・知識や技能の習熟の程度を的確に評価するだけでなく、子供の学習に対する努力や意欲などを積極的に評価する。(学習過程における評価の重視)
- ・他者との比較ではなく、子供一人一人がもつ長所や進歩を把握する個人内評価を大切にする。

